



あすなろだより

2007年6月11日

発行 三重県立^{こども}小児心療センター あすなろ学園 広報担当
〒514-0818 三重県津市城山1-12-3 TEL. 059-234-8700 FAX. 059-234-9361
MAIL : asunaro@pref.mie.jp URL : <http://www.pref.mie.jp/ASUNARO/HP/>

年度初めのご挨拶

あすなろ学園長 西田 寿美

平成19年度はあすなろにとって行事の多い年になりそうです。

大きな行事としては、平成19年8月1日の「あすなろシンポ」と平成20年2月14日～16日までの全国児童青年精神科医療施設協議会研修会の開催です。

また、平成19年12月14日～15日の間、日本子ども虐待防止学会第13回学術集会・みえ大会も津市で開催されます。それぞれ子どもに関する大切な専門研修の機会となりますので、ぜひ皆様の参加をお願いいたします。

去年度のあすなろだよりで、拙文「きんかん」を皆様に読んでいただきました。あのきんかんは今、「はちみつ漬け」として我が家にあり、時々つまんでその味を楽しんでおります。

我が家の狭い庭にも小鳥たちが訪れます。3月ごろまで、メジロが毎朝訪れてきました。樫の花の蜜を吸いに来るのです。庭の真ん中のエゴノキの枝にみかんを置いておくと、すぐにつつきに来ました。それを見ているのが面白くて、毎日みかんを置くようになりました。

ところが、それを見つけたヒヨドリが横取りするようになりました。ヒヨドリはメジロの3倍を超える大きさがあります。ヒヨドリがいなくなると新しいみかんを置くようにするのですが、メジロが来ると、どこからかすぐヒヨドリが追い払いに来ます。追い払われたメジロはアセビの花の蜜を仕方なく吸っていました。鳥の世界も大変だと思いつつも、毎朝興味深く眺めて飽きませんでした。

自然の観察は、雑事を忘れて一時の心の安らぐ時となります。人間も自然の中であってこそゆったりとした気持ちを取り戻すことができるのではないのでしょうか。実感として感じました。

新しい年度は、ゆったりとした気持ちで仕事ができたらと思っています。

※ 全国児童青年精神科医療施設協議会研修会は協議会員のみの研修会です。

市町支援グループが誕生しました

こどもの発達総合支援室長 中村みゆき

平成19年4月1日、あすなろ学園に発達障害児を支援する【こどもの発達総合支援室“市町支援グループ”】が誕生しました。“発達障害児を支援するシステムを構築する”意志のある市町を支援することを目的に組織編成されたグループです。

発達障害者支援法は「発達障害者の心理機能の適正な発達及び円滑な社会生活の促進のために、早期発見・早期支援を行うこと」に関して、国及び地方公共団体の責務を明らかにしています。(第一条、第三条より)

三重県健康福祉部は、次世代育成の重点事業の一つとして“発達障害児への途切れない支援”を掲げ、本年度から本格的スタートとなった特別支援教育を推進する教育委員会や、二一トに代表される若者自立支援を推進する生活部と部局を横断する協働を計画しています。いじめ、虐待、学習不振、不登校、暴言・暴力、教室からの飛び出し、万引き、家庭内暴力、校内暴力、引きこもり、二一ト、その他社会的不適応等、それぞれのライフ

ステージに顕在する子どもを巡る諸課題は、子どもの発達に応じた総合的かつ途切れない支援により、解決・軽減あるいは予防可能と考えられます。そのためには、その子どもが生まれ育つ市町で、早期発見と適切な早期支援が継続的に実施されることが必要です。子どもは誰でも成長過程で悩んだり、躓いたりします。そのとき身近で即対応してくれる“こどもの発達総合支援室”(たらい回しにせず、専門的対応が可能で、現時点での解決方策提示と途切れない支援をマネジメントしてくれる“こども問題の駆け込み寺”)が必要となります。現在、市町支援グループは昨年度から引き続いた6市町を支援しています。19年度も新しい市町に主旨をご紹介し、拡大していきます。

具体的な支援

1 保健師さんの早期発見・保護者のサポート援助

健診時に子どもを前にして気になる子を発見できる観察眼の養成と発見に適した健診システムの見直し、保護者が安心する対応の方法などです。その子に病名のラベルを貼ることはありません。その子にあった個別の支援を行うための第一歩となるものです。

2 保育士さん、幼稚園教諭さんには乳幼児期の気になる子の発見方法、個別支援(指導)計画の作成、保護者のサポート援助

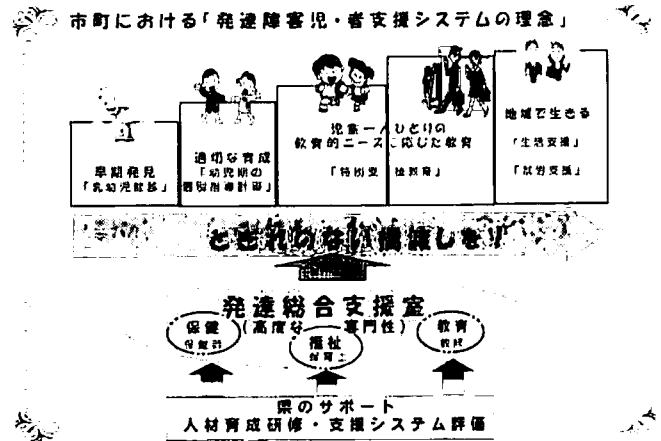
「何か他の子とは違う」と感じている保育園、幼稚園の先生に、集団場面(3歳、5歳)で子どもの発達を見極める観察眼の育成とその子に対しての個別支援(指導)計画の作成・実施・評価方法を援助します。あわせてクラス全体の運営方法や保護者への対応の方法を提案します。

3 乳幼児期から学童期への途切れない移行方法の具体的な支援

4 途切れない支援システムのため必要な保健・福祉・教育が協働する“こどもの発達総合支援室”機能設定の援助

5 キーパーソンとなる市町職員（保健師、
保育士、教員等）の専門性の養成

あすなろ学園に1年間研修にきていただき
児童精神科医療の各プログラム実習やあすな
ろ分校での個別指導計画作成実習、地域関係機
関のマネージメント実習などにより子どもの
発達の理解と様々な専門的技能の向上を目指
します。



市町支援グループでは“発達障害児を支援するシステムを構築する市町”の支援や市町職員の1年間の研修を行っています。

【平成 19 年度の研修者紹介】

森 順子（保育士・鈴鹿市）



あすなろ学園での研修を生かして、「鈴鹿で子育てして良かった」と思えるような支援のネットワークを、保育所を中心にして、夢と出会いを結びながら、少しずつ実現していきたいと思います。

谷 礼子（保育士・志摩市）



子どもたちが安心して笑顔で過ごせるように・・・
途切れのない支援が受けられるように・・・
今年1年間、あすなろ学園でがんばりたいと思います。

渥美 修二（中学校教員・亀山市）



教員としてはそろそろベテランと呼ばれる年齢となり、それなりにキャリアを積んできたつもりではありましたが、あすなろ学園での生活は、日々新たな発見と驚きの連続です。

山口 富生（小学校教員・津市）



幼少期から“うまい”支援が提供され、それを保・幼から小・中へと途切れなくつないでいく。そんな取り組みが少しでも前進し、誰もが地域で生きやすくなるという環境をつくっていききたいです。

【問合せ先】 三重県立小児心療センターあすなろ学園
こどもの発達総合支援室 市町支援グループ
電話 059-234-8700（内線36）

☆ あすなろ学園内 室名称が変更となりました（平成 19 年 4 月 1 日より）
指導室 → こどもの発達総合支援室 子どものこころの相談室 → 医療連携室

～お知らせ～

平成19年度 合同講演会・シンポジウム
テーマ：「これからの地域子育て支援を考える～虐待予防のために」

日時：平成19年8月1日（水） 開場 9:30 開演 10:00

場所：三重県総合文化センター 文化会館 中ホール

主催：三重県立小児心療センターあすなろ学園 共催：三重県自閉症・発達障害支援センター

プログラム：第一部 講演会（10:00～11:30）

演題：「被虐待問題に潜むもの～社会・文化的背景や法的理解から」

講師：津崎哲郎（花園大学社会福祉学部教授）

司会：あすなろ学園長 西田寿美

第二部 シンポジウム（13:00～16:30）

テーマ：「これからの地域子育て支援を考える～虐待予防のために」

シンポジスト：伊原和人（厚生労働省雇用均等・児童家庭局虐待防止対策室・
母子家庭等自立支援室長）

澤田真仁（志摩市ふくし総合支援センター子ども総合支援係長）

鈴木 聡（三重県中勢児童相談所虐待対応課長）

中野雅史（三重県立小児心療センターあすなろ学園主幹）

指定討論：津崎哲郎（前出）

司会：三重県健康福祉部医療政策監兼総括室長 西口 裕
あすなろ学園長 西田寿美

定員：900人 参加費：無料

申込み：申込み不要（当日、上記定員になり次第、締め切ります）

問い合わせ先：三重県立小児心療センターあすなろ学園 医療連携室

電話：059-234-8700（内線30か32）



外来診療のご案内

（平成19年6月1日現在）

* 診察は完全予約制です。

* 初めての方の診察は午前のみで、
予約制です。

● 予約電話番号

059-234-9700

曜日	月	火	水	木	金
1 診	中島	西田	中野	山本	西田
2 診	山本	中西	石田	中西	中野
3 診	河野	中島	/	河野	大槻